

施策シート

	No	1
実施計画	施策	つくる① 目標林型・ゾーニングの設定
	目的	今後森づくりをしていくうえで必要となる、目指すべき森のかたち(目標林型)と、その配置(ゾーニング)を明らかにします。 現在の森の状態のほか、村民・利用者のニーズを反映して設定します。
	実施主体	観光森林課
	実施期間	R6～R10
	成果指標	大芝高原全域の目標林型・ゾーニングの設定
R6 報告	R6事業計画	目標林型・ゾーニングの設定し、実施計画に記載する。 シンボルツリーを選定する。
	新規・継続	新規
	事業費(実績)	実施計画策定 5,940,000円
	事業実績	村民アンケートや大芝高原森林づくり協議会、実施計画説明会により、村民や利用者の意見が反映された目標林型・ゾーニングを設定し、実施計画に記載した。 シンボルツリーの選定については、村民参加による選定会を検討していたが実施計画の策定に時間を要したため、年度内に実施できなかった。
	事業効果	目標林型(どんな森を目指すか)を設定することができ、今後の森づくりの方向性を示すことができた。
	今後の課題・取り組み	□より詳細な目標林型の検討 実施計画で設定した目標林型・ゾーニングは大まかなものであり、より詳細な検討も必要である。みんなの森は「多様性の森」となっていることから、R10までに林分ごとの詳細な目標林型を検討する。特に、「資源の森」については、次期計画策定時に具体的な議論を行い計画に反映する。(実施計画p33) □シンボルツリーの選定 住民参加によりアカマツのシンボルツリーを選定する。
	写真・図表による説明	実施計画の図の抜粋 
評価	森林協議会 委員コメント	概ね計画どおり実施されている。 細分化したエリアごとの詳細な計画が必要である。アカマツのシンボルツリーについては、エリアとしての保存を含めて選定の要否、選定の方法、保護方法やその費用も含めて専門的・長期的な視点から慎重に検討すること。
R7 計画	R7事業計画	□シンボルツリーの選定
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	—

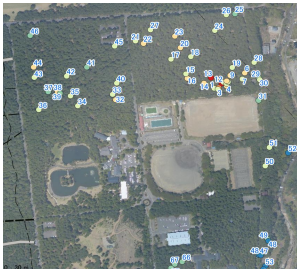
施策シート

	No	2
実施計画	施策	つくる② 整備計画・ガイドラインの策定
	目的	目標林型を達成するために「いつ・どこで・どのような整備をしていけばよいか」を記した整備計画を策定します。次の森をつくるための植栽・保育作業や、日常的な公園管理としての刈り払い作業も含みます。 それぞれの整備が目的に沿ったものとなるよう、伐採や刈り払いのガイドライン（作業指針）を策定します。
	実施主体	観光森林課 南箕輪村開発公社
	実施期間	R6
	成果指標	整備計画の策定 伐採ガイドラインの見直し 刈り払いガイドラインの策定
R6報告	R6事業計画	・整備計画を実施計画に掲載する ・伐採ガイドラインの見直し ・刈り払いガイドラインの策定・適用
	新規・継続	新規
	事業費(実績)	(実施計画策定 5,940,000円※No1と同一事業)
	事業実績	・実施計画第5章に、2030年までのアカマツ主伐に関する整備計画（いつ、どこを整備するか）を策定した。 ・施業現場ごとに伐採ガイドラインの見直し（大きな変更はなし）。 ・刈り払いガイドラインの策定をした。（適用は未実施）
	事業効果	・整備計画を策定したことにより、伐採スケジュールや必要経費が明らかになり、計画的にアカマツの伐採を進めることができるようになった。 ・伐採ガイドライン・刈り払いガイドライン（どのように作業するか）により、アカマツ伐採後の森林についても計画的に作業を実施することができるようになった。
	今後の課題・取り組み	□主伐の方法の見直し 対象林分ごとの状況に応じて、設計内容や伐採ガイドラインを見直し、景観配慮やコスト縮減に取り組んでいく。（温泉付近では景観に配慮して伐採スケジュールを再検討する など） □更新・保育の計画的実行 アカマツ伐採後の状況や、進捗状況を確認しながら更新（植栽・刈り出し）・保育（下刈り等）を計画的に実施する体制をつくる。 □刈り払いガイドラインの運用 R7年度から運用しつつ、必要に応じて内容を見直していく。
	写真・図表による説明	実施計画の見取り図、刈り払いガイドラインのポンチ絵
評価	森林協議会 委員コメント	概ね計画どおり実施されている。 各ガイドラインについて、実施計画に沿った整備や必要な配慮が行われているか チェック体制の構築が必要である。
R7計画	R7事業計画	□整備方法の検討 □更新・保育の必要作業量把握と実施体制づくり □刈り払いガイドラインの運用と見直し
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	—

施策シート

	No	3
実施計画	施策	つくる③ 着実な樹種転換の実施
	目的	まだ松枯れに感染していないものを含めてアカマツを伐採し、他の樹種へ転換していきます。村発注業務により整備計画に沿って着実に樹種転換を進めます。 伐採にあたっては、ガイドラインによるほか、伐採業者との打合せ協議を密に行うことで、必要な木を残すなど景観に配慮した整備に努めます。樹種転換にあたっては、植栽によるだけでなく、エリアによっては自生する広葉樹等を活用することで、多様で自然に近い森づくりを進めます。
	実施主体	観光森林課
	実施期間	R6～R12
	成果指標	樹種転換の実施面積
R6報告	R6事業計画	・アカマツ主伐2.4ha(マレットゴルフ場0.9ha、アスレチック広場1.5ha) ・更新 植栽0.5ha(植樹祭) ・保育 下刈り1.0ha(R4皆伐地)
	新規・継続	新規
	事業費(実績)	・アカマツ主伐 マレットゴルフ場 6,886,000円 アスレチック広場 8,624,000円※【繰越事業、R7継続中】 (補助金)更新伐補助金1,800,000(R7申請予定) ・植栽 150周年記念植樹祭 704,438円 ・下刈り 植樹祭会場下刈り 990,000円
	事業実績	・アカマツ主伐2.4ha(マレットゴルフ場0.9ha、アスレチック広場1.5ha(繰越)) 落札業者の不備により一部が繰越事業となってしまったが、計画範囲のアカマツ伐採について発注した。 ・更新 植栽0.5ha(植樹祭) R4皆伐地に広葉樹150本を植樹した。 ・保育 下刈り1.0ha(R4皆伐地)
	事業効果	実施計画に沿ってアカマツの主伐を実施し、樹種転換を進めることができた。 R4皆伐跡地の更新については、天然更新稚樹が不十分な箇所へ補完的に植栽(R6植樹祭)することで概ね完了し、広葉樹への転換を進めることができた。 R5郡市植樹祭会場で植栽木、天然更新木まわりの下刈りも実施し、更新を促進した。
	今後の課題・取り組み	□アカマツ主伐の計画的実施 R7以降も引き続き計画どおりにアカマツ主伐を進めていく。 □主伐済林分の更新・保育 更新・保育については、当面は現場レベルの計画で優先順位をつけながら進めていく。
	写真・図表による説明	アカマツ主伐作業の様子
評価	森林協議会 委員コメント	概ね計画どおり実施されている。 更新・保育についても計画的な森づくり体制を整える必要がある。また、アスレチック広場の伐採も早期に実施すること。
R7計画	R7事業計画	□アカマツ主伐の計画的実施 □主伐済林分の更新・保育
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	・大芝村有林整備事業 43,000,000円 ※アカマツ主伐、選択的林床刈払い、植樹祭会場の下刈りを含む

施策シート

	No	4
実施計画	施策	つくる④ 被害木・危険木の巡視と処理
	目的	点在する松枯れ被害木については、被害拡大防止や安全対策の観点から、村と南箕輪村開発公社が協力して定期的に巡視し、迅速に処理します。 巡視・処理に関する役割分担、連絡体制、データ管理方法を整理し、漏れなく迅速に対処できる体制を構築します。
	実施主体	観光森林課 南箕輪村開発公社
	実施期間	R6～R12(役割分担、連絡体制、データ管理方法の整理はR6)
	成果指標	松枯れ被害木の対処率(処理本数／発見本数)
R6報告	R6事業計画	・危険木処理(随時対応) ・松枯れ被害木の対処(道沿い優先で予算範囲内で処理) ・危険木・被害木に関する役割分担、連絡体制、データ管理方法の検討
	新規・継続	新規
	事業費(実績)	【危険木処理】 村有林(大芝高原内)の危険木処理 2,612,500円 【松枯れ処理】巡視員 89,670円 7回(大芝) 村内の松枯れ処理 19,489,910円※ (松枯れ対策関連補助金内訳) 松林健全化推進事業 2,394,000円 保全松林緊急保護整備事業 5,280,800円 市町村森林整備支援事業 3,500,000円
	事業実績	・危険木処理 大芝高原内の危険木を処理(大芝の湯駐車場周辺・味工房駐車場出入口・ファームポンド) 人的被害なし。ファームポンドで倒木によりフェンス破損。 ・松枯れ被害木の対処 R6対処率(処理本数296本／発見本数366本) =81% ・役割分担、連絡体制、データ管理方法は検討中。
	事業効果	落枝・倒木の危険がある樹木や、道沿いに張り出している樹木を伐採し安全を確保した。 多くの人が利用するキャンプ場やマレットゴルフ場、アスレチック広場、セラピーロード沿いの松枯れ被害木については伐採処理を行い、利用者の安全対策の観点からは一定の成果が得られた。
	今後の課題・取り組み	・被害木の処理 松枯れの発見本数に対して処理が追い付かず、被害拡大防止は困難な状況である。引き続き人通りの多い場所を優先的に実施するなどの安全対策は行いながら、松枯れ被害拡大防止に努める。また、大芝高原内で確認されたナラ枯れについても対策を検討する。 ・林内立ち入り規制などの安全対策 被害木処理が間に合わない林内は落枝等の危険がある状態であるため、立ち入り規制などの対応を検討・実施していく。 ・危険木処理フローの明確化 危険木の巡視・処理に関する村と開発公社の役割分担、連絡体制、データ管理方法を明確化する。
	写真・図表による説明	巡視状況の写真、GISデータのイメージ  
評価	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている。 枯損木処理はデータ管理により、計画的・効率的に対応する必要がある。安全管理は最優先課題であり、危険木処理フローの明確化について対応すること。 また、成果指標について見直しを検討すること。
R7計画	R7事業計画	・危険木・被害木の処理(歩道沿い優先) ・林内立ち入り規制などの安全対策 ・危険木処理フローの明確化
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	【危険木処理】 ・3,000,000円 【松枯れ処理】 ・監視員 100,230円 ・予防対策事業 13,000,000円 ※うちナラ枯れ対策費1,000,000円

施策シート

	No	8
実施計画	施策	つかう③ 木育の推進
	目的	現在実施している大芝高原の材を使用した食育箸、ファーストイのプレゼント等を継続的に実施し、木育を推進します。
	実施主体	南箕輪村(観光森林課ほか)
	実施期間	R6～R12
	成果指標	配布個数
R6報告	R6事業計画	■村産材のおもちゃ等の配布(令和5年度出生児) ・ファーストイ:150個 ・木育おもちゃ:保育園の希望による配布(希望調査12月10日) 板積木セット6.歯医者2.野菜収穫2 ミニままごとキッチン3.ままごとセット5.型はめ2 ・食育箸:180セット
	新規・継続	新規
	事業費(実績)	・ファーストイ作製 495,000円※ (補助)こども子育て応援市町村交付金247,500円 ・木育おもちゃ(保育園) 976,800円 ・食育箸 358,380円
	事業実績	村産材のおもちゃ等の配布 ・ファーストイ:121個(対象者全員に配布) ・木育おもちゃ:20点 ・食育箸:143セット(対象者全員に配布)
	事業効果	大芝高原産材を使用した製品を配布したことで、家庭での木育につながった。また、比較的森を訪れることが少ない世代への周知につながった。
	今後の課題・取り組み	継続して実施することが重要な施策であるため、今後も続けていく。ファーストイについては今年度初めての取り組みであったため、配布後の反応を聞きつつ改善していく。
	写真・図表による説明	ファーストイ  食育箸 
評価	森林協議会委員コメント	計画どおりだが検討が必要。木材に触れる機会は大切であるが、高額なおもちゃを継続配布していくことについて、費用対効果の観点から検討の余地がある。また、成果指標について見直しを検討すること。
R7計画	R7事業計画	ファーストイ事業など村産材のおもちゃ等の配布 ・木製品に対するニーズの把握・反映
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	・ファーストイ作製 495,000円 ・木育おもちゃ(保育園) 900,000円 ・食育箸 358,380円

施策シート

	No	9
実施計画	施策	つかう④ 森林空間の活用検討・・・つなぐ③と関連
	目的	村民アンケートや大芝高原森林づくり協議会では、森林の活用について様々な意見がありました。 ニーズを反映し、森の資源・魅力を活かした森林体験を提供します。季節にあわせて多様な森の楽しみ方を発信していきます。
	実施主体	観光森林課 健康福祉課 教育委員会 地域住民
	実施期間	R6～R12
	成果指標	イベント・講座の開催回数
R6 報告	R6事業計画	■イベント等の開催 ・おおしば森フェス 1回 ・大芝自然観察会 1回 ・大芝野鳥観察会 2回(@大芝、全4回) ・大芝こども未来塾 1回 ・ウォーキング講座 7回 ・てくてく健康教室 6回
	新規・継続	新規
	事業費(実績)	・おおしば森フェス 341,000円
	事業実績	■イベント等の開催 ・おおしば森フェス 1回 ・大芝自然観察会 1回 ・大芝野鳥観察会 2回(@大芝、全4回) ・大芝こども未来塾 1回 ・ウォーキング講座 7回 ・てくてく健康教室 6回
	事業効果	おおしば森フェスは初開催であったが、多くの人が訪れ、みんなの森やアカマツに親しんでもらう機会となった。その他のイベントは継続事業であるが、地域住民がみんなの森を訪れるきっかけづくりとなっている。
	今後の課題・取り組み	引き続きみんなの森を利用したイベントを各担当課主催で開催していく。イベント内容については、村民アンケートなどを参考に利用者のニーズにあったものを検討していく。
	写真・図表による説明	 森フェス  ウォーキング  野鳥観察会  ウォーキング
評価	森林協議会 委員コメント	概ね計画どおり実施されている。 引き続き、様々な人が森に親しむ機会を設けてほしい。イベント等の内容には村民アンケートの結果を活かし、効果的な取り組みを検討すること。また、成果指標について見直しを検討すること。
R7 計画	R7事業計画	■イベント等の開催 ■利用者ニーズの把握・共有・反映
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	・公民館講座(自然観察・野鳥観察・未来塾) 40,000円 ・てくてく健康教室 250,000円

施策シート

	No	13
実施計画	施策	つなぐ② 学校の森林教育のサポート
	目的	学校からの要望に応じて、大芝高原の木や森に関する学び、森をつかった学びをサポートする体制を整備します。 また、学校から要望があった場合は村から木材を無償提供します。 講師派遣にあたっては、みどりの少年団出前講座、学びと育ちの森づくり事業、信州環境カレッジ、郷土愛プロジェクトなど、国、県、民間の各種支援制度を活用します。
	実施主体	観光森林課
	実施期間	R6～R12
	成果指標	木材提供量、講師派遣回数
	R6事業計画	●木材の提供ほか
R6 報告	新規・継続	新規
	事業費(実績)	南箕輪小DIYクラブ資材費 110,246円※ 【うち補助金】 学びと育ちの森づくり推進事業 110,246円
	事業実績	●木材の提供ほか ・南箕輪小 約0.5m3 ●講師の派遣 ・南部小 1回 ・中学校 1回
	事業効果	学校からの要望に応じて、大芝高原産アカマツ材の提供、講師派遣を行い、小中学生が森や木材に関わるきっかけとなった。
	今後の課題・取り組み	■木材提供とニーズの把握 木材提供を継続していく。学校が必要とする規格の材と村が保管する材のズレがあるため、学校への要望調査などを行っていく必要がある。 ■森林環境教育に関する講師派遣制度や補助金の周知 年度途中での制度の利用は難しいため、学校への要望調査や周知のタイミングを検討する。
	写真・図表による説明	南小ツリーハウス写真、 中学校学校林作業の写真
評価	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている。 教育委員会との連携体制の明確化し、支援制度の活用促進を図りつつ、様々な学年が木や森と関わる体験機会が充実されると良い。また、学校林の管理方針を明確にすること。
R7 計画	R7事業計画	■木材提供の継続とニーズの把握 ■森林環境教育に関する講師派遣制度や補助金の周知
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	南箕輪小DIYクラブ資材費 110,000円 【補助】 学びと育ちの森づくり推進事業 110,000円